

◆ 目黒区 ◆

# 中小企業の景況

平成28年度第2・四半期  
(平成28年7~9月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

## 目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 28 年 7～9 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向	23
4. 特別調査「金融サービスにおける IT 利活用と中小企業」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

## 調査の概要

1. 調査時期 平成 28 年 7 月～9 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	91	88
卸 売 業	28	27
小 売 業	49	46
サ ー ビ ス 業	57	56
建 設 業	36	35
合 計	261	252

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

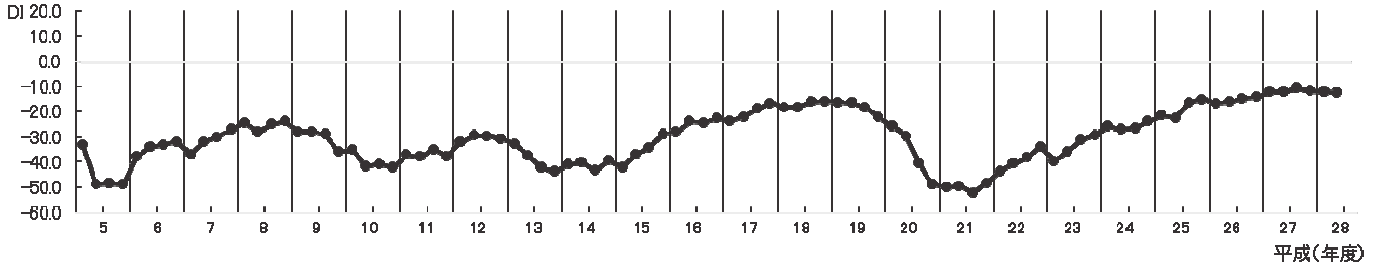
分析実施機関 株式会社帝国データバンク

# 1. 都内中小企業の景況（平成28年7～9月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

全体としての業況は横這い。～建設業は好感感が続き、不動産業は水面下に落ち込む～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合)は-12.3(前期は-12.1)と前期に比べ0.2ポイント悪化した。業種別に見ると、卸売業でやや厳しさを増し、不動産業でわずかに悪化に転じた。

来期は、製造業・卸売業・小売業・サービス業は水面下ながら持ち直し、建設業は良化すると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	-11.9	-11.8	0.1	-9.7	2.1
卸 売 業	-11.7	-13.7	-2.0	-10.1	3.6
小 売 業	-27.0	-26.8	0.2	-25.3	1.5
サ ー ビ ス 業	-12.7	-12.8	-0.1	-9.9	2.9
建 設 業	6.8	7.9	1.1	10.3	2.4
不 動 産 業	3.0	-0.5	-3.5	0.0	0.5
総 合	-12.1	-12.3	-0.2	-10.2	2.1

## <製造業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・受注残・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で、原材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「輸送用機械」、「化学工業」は前期並の好感感が続いた。「プラスチック」はわずかに好調に転じ、「精密機械」「建設用金属」「印刷関連」は水面下ながら多少改善した。「電気機械」は若干低迷し、「一般機械」「プレス・メッキ」「ゴム製品」「皮革関連」「紙・紙加工品」は前期同様の厳しさが続いた。「食料品」「金属製品」「繊維・衣服」は幾分悪化幅が拡大し、「木材・家具」は大きく深刻さを増した。来期の業況は水面下ながら改善するとみている。売上額・受注残・収益は持ち直すかと予想している。

## <卸売業>

業況はやや厳しさを増した。売上額はわずかに低迷し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は幾分下降が一服し、仕入価格は多少着着きを見せた。

業種別では、「機械器具」はわずかに好調に転じ、「鉱物・金属材料」は大きく持ち直した。「食料品・飲食品」はやや深刻さを増し、「建築材料」「化学製品」「繊維・衣服」は大幅に悪化が強まった。

来期の業況は、持ち直すかとみている。売上額・収益は減少が一服すると予想している。

## <小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「家具・建具・じゅう器」は水面下ながら大きく改善し、「医薬品・化粧品」「自転車・自動車」はわずかに厳しさが和らいだ。一方、「家電・家庭用機械」は若干低迷し、「ガソリンスタンド・燃料」「カメラ、時計・眼鏡」は大幅に厳しさを強めた。

来期の業況は、持ち直すかと予想している。売上額・収益は水面下ながら改善するとみている。

## <サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額はやや持ち直し、収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は前期同様変化なく、「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」はやや低調感を強めた。来期の業況は厳しさが和らぐとみている。売上額・収益はともに水面下ながら改善するとみている。

## <建設業>

業況は前期並の好感感が続いた。受注残はわずかに強含み、売上額・施工高・収益は前期同様の増加で推移した。価格面では、請負価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「総合工事」はわずかに好感感が強まった。一方、「職別工事」は多少増勢が一服した。

来期の業況は良化すると予想している。売上額・受注残・施工高・収益は今期同様の増加が続くとみている。

## <不動産業>

業況はわずかに水面下に落ち込んだ。売上額・収益は多少弱含んだ。価格面では、販売価格は前期並の上昇が続き、仕入価格はわずかに上昇が弱まった。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は幾分増勢が後退し、「不動産代理・仲介」は若干悪化に転じた。

来期の業況は今期同様に変化なく推移するとみている。売上額・収益は今期同様の水準が続くと予想している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○(季調済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。